あおい通信 第125号

第125号 平成27年10月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話 03－3978－0919

日本の世界遺産めぐり
その十七 富士山（文化遺産）

２０１３年６月、富士山は世界遺産に登録されました。当初、富士山は「自然遺産」への登録を目指しており、「文化遺産」登録までには約二十年の歳月がかかったことになります。ようやく世界遺産登録に関わってきた機関や人々のすべての努力が報われました。ところで富士山が「自然遺産」への登録ができなかった理由は、し尿やゴミ投棄などの環境保全の問題でした。当時の富士山といえば、し尿は垂れ流し、裾野にはゴミが放置されていたからです。今では山小屋のトイレが整備され、登山者自身のモラルも高まり、裾野へのゴミの廃棄も見られません。どこから見ても美しい富士山になっています。登山者の増加に伴いオーバーキャパシティーの問題も指摘されるようになりました。２０１４年度から山梨県と静岡県は富士山環境保全金を徴収し、富士山の環境保護や登山道の整備などに使われています。美しい富士山を後世に伝えるために、私達も自分達ができる範囲での協力をしていきたいものです。

富士見市から見た富士山

三保松原
世界文化遺産「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」の構成遺産の一つに登録されています。ユネスコに提出した世界文化遺産推薦書によると、構成資産は羽衣公園付近から真崎までの清水海岸（砂浜及び松林）、御穂神社境内全域と「神の道」、清水灯台（三保灯台）などで構成され、資産面積６４・４ｈａ、緩衝地帯面積２５２・０ｈａが指定され、駿河湾を挟んで優美な富士が見えます。

その他の観光地
箱根　箱根は富士山を望めるうえに、東京から近く温泉や歴史・美術館や各種の乗り物が楽しめることもあり、年間を通じて内外の観光客が絶えず、夏は避暑地としても有名です。しかし、今年六月三十日箱根山で小規模な噴火が発生し、八百年ぶりの小規模噴火で、現在は大涌谷で水蒸気爆発が増大し危険エリアとなっていて、観光事業にも支障をきたしています。

箱根以外、**富士五湖・白糸の滝・朝霧高原・ダイヤモンド富士**・等々。

三保の松原

世評・時評

美輪明宏

丸山明宏（本名）さんの原爆体験から。「七十年前の、あの夏、長崎は地獄に一変した。父は、長崎市の花街近くでカフェを経営していて、上の階が自宅でした。爆心地の南東約４キロ辺り、戦時中、水商売は享楽的で不謹慎とされ、店は閉鎖されていました。１９４５年８月９日の朝は雲一つ無い快晴でした。二階の窓は、一面ガラス張りで、１０歳の私は窓際で、夏休みの宿題の絵を描いていました。でき上がりを確かめようと、２、３歩後ろに下がった途端、ピカッ。何千ものマグネシウムを焚いたような白い光でした。こんな良い天気なのに雷光なんてと、不思議に思いました。一瞬、シーンと静寂に包まれ、世界が息を潜めているみたいでした。その後すぐ、ドッカン。今度は世界中の音という音をすべて集めたような凄まじい大音響が轟き、家がぐらぐら揺れて傾きました。部屋の奥にいたお手伝いさんと２人で布団をかぶったら、空襲警報が鳴り出しました。階段を駆け下り、爆風で机の下に飛ばされていた兄を起こし、３人で防空壕に向かおうと表に出たところ、いつもの景色が一変しています。隣の劇場の天井がすっぽり落ちていました。勤労奉仕の挺身隊の宿舎になっていた高い建物はぺちゃんこでした。そして、『うちは早う逃げて』『なんば言うとね。しっかりせんばいかん』梁の下敷きになっていた友人を一生懸命、引っ張り出そうとしていた女性の髪に火が付きました。消防団の人が飛んで来て、防空頭巾ではたいて消火し引きずって連れて行きました。まさにそこは地獄でした。

雑記帳 平和を願う

今年は戦後七十年の節目として、戦争の悲惨さを語り継ぎ、二度と戦争の無い平和な世の中にする決意を固めた事は本当によかったと思う。私は子供の時から、知らぬ間に戦争の中に育ち成長し、戦争をしているのが当たり前の毎日を、それが普通だと暮して来たので、今こうして平和に生きて居られる事が有難いと、心から思えるのです。それで、戦争の日々の大変だった経験を少し思い出して、お話して見たいと思いました。

戦争が激しくなる程に、先ず物が段々無くなって行きました。石鹸、歯磨き粉、お米を始め、食料品、衣服等、何もかもが無くなって自由に買えない。燃料も無いからお風呂も無い。家族一人々々に配給があるけれど、ほんの少しで足りません。平和な今、そんな生活をしていたなんて考えられない。それが戦争なんです。それでも国民は戦地で命がけで戦っている兵隊さん達を思って我慢したのです。段々戦争が激しくなってからは、空襲が始まり、命まで皆、狙われる様になって終いました。日本中が焼け野原になって行ったのです。七十年経った現在、此の平和を護って行きましょう。人として世界中の人が幸せに、暮らせる世の中で有ります様に、心から願い、祈り続けて行かなければならないと思います。

額賀美保

◆編集委員会より
「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。係員・飯島までで

葵友の会 広報コーナー

9月度行事の結果
カラオケ会
１８日（金）バンバンにて。８名の参加。
山中湖・忍野村一日バス旅行
３０日（水）昼食はホテルマウントフジで洋食、あるいは和食のコースを食べました。２５名の参加。

10月度行事の予定
「鴨川かんぽの宿」一泊旅行
１５日（木）、１６日（金）。一日目はマザー牧場での昼食後、宿でゆっくり。二日目は鴨川シーワールドに行きます。昼食は、山菜料理です。

12月度行事の予定
初めての企画、「大忘年会」を計画しています。ぜひ皆様の参加をお待ちしています。

利用者さんの紹介コーナー

藤田　喜久栄（土）

仕事一筋に生きてきました。経理事務から始まって、金融業、生命保険などいろいろ、人とのつながりで大きく変わってきました。今も何人かで株式情報の発信を試みています。

濱野　數枝（水）

運動が好きで、今も月曜日と土曜日にストレッチに通っています。旅行が好きで印象に残っているのはニュージーランドとスイスです。

桑原　仁一（月、金）

本が好きです。ビジネス書を読みます。ちなみに今読んでいる本の題名ですが、「池上彰の教養のススメ」「ニュースがわかるQ&A　日本経済の基本」です。

なんでも落語講座　二

絹田治夫

【まさに前座噺は名作揃い、時に大看板が演ずることも】

落語の一門によっては、落語家になりたての前座が、まず最初に教わる前座噺がきまっている。

小さん一門ならば「道灌」、三代目三木助一門は「寿限無」、園生一門は「八九升（はっくしょん）」。「八九升」の、落ちだけを少し・・・

ご隠居の耳が遠いことをいいことに、ニコニコしながら悪態をつく番頭。質問に、帳面を横にして横丁などとして答えていたが、米の値段が一両いくらだとの問いに面倒くさくなった番頭は、こよりを、ご隠居の鼻の穴に突っ込んで『はっ、はっくしょう（八九升）ぐれえか』。

噺を本文に、上方ならば米朝は「つる」である。三代目桂米朝の師匠である四代目、桂米團治によると、「つる」は落語にとって必要な要素がすべて含まれているという。「つる」の、落ちだけを少し・・・

雄が「ツー」雌が「ルー」と飛んできたから「鶴」になったという名前の由来を聞いた男。自慢げに友達に教えるが、間違えて雄が「ツー」と飛んできて「ル」と留まると言ってしまった。「雌はどうした」「黙って飛んできた」。

つづく

ふわふわ亭わび助

私の八月が過ぎて

メディア「鞠子」

猛暑・豪雨・土砂崩れ・水害・暴風・突風・竜巻・地震・噴火・そしてサメの群れ！災害手引きを分解したのではありません。この夏、全て日本列島に関わった異常気象なのです。人間の頭脳・化学の進歩も、自然の力にはかないません。昔も、近代化された今の生活も、全て自然の中で生かされている事を改めて痛感させられた夏でした。そして又、毎年八月は戦争・平和の言葉や文字が、目、耳に入ります。二年生の頃の六月、短い間でしたが、岡山に疎開しました。荷物も解けないうちにB29が70機、焼夷弾が雨の如くの中を逃げ惑いました。焼野原となった街の中、負傷で呻く人、親とはぐれて泣く子供、焼けただれた死体を跨いで、父方の、より山奥に、貨物列車で逃れました。牛小屋の隣にある五エ門風呂、川の水を汲んで沸かすのでメダカが浮いていました。夜に飛ぶ「火の霊」わら草履で山、畦道を歩いて分校に通学、帰りには山で鞄一杯松茸を掘り、柿、桃、梨をもぎ、食べながら。今流に申しますと〝クスネル〟でした。

つづく

あおい俳壇・歌壇

コスモスの中　道祖神　　大内田日出人
夕焼ける　霞ケ浦は　広々と
雨上がり　夏の名残の　蝉しぐれ
ありし日の　小言懐かし　母の日や　　相田美代子
すぐに出ぬ　今日は何日　脳トレで
顔見合わせ　くすくす笑う
いらっしゃい　後期高齢の　扉あく
気合いれてね　駅目亭主には
日の出まえ　歩行器押して　ゆっくりと
顔あがらぬ　お側の君に

七月作・題詠（連作3首）「連れ合い」鈴樹清明

かく永く　生きて逢へざる　面影の
ふとよぎりゆき　散る百日紅
けやき葉の　影にほんのり浮く月の
暮ゆく空に　輝き魅せる　　河西千恵子
群れかもめ　羽をやすめて　白波に
身をまかせおり　秋深まりて
ひた走る　列車の窓に　流れゆく
越後平野は　黄金波うつ　　麻生伊登子

大好きなワンチャン

図斉しげ子

五年位前、我が家の近くにペットと同居のマンションが建った。夕方になると、近くの公園や街角で、色とりどりの服を着て、中には靴を履いているワンチャン、ベビーカーに乗っているワンチャン、それぞれママに連れられて、楽しそうに群れている。ママも楽しそうに話がはずんでいる。そんな中に、時々、ゴールデンレトリバーが仲間入りしている。チャラチャラして落ち着きがなく、通る人にいきなり吠えたりする小型犬。それに比べ、大きな図体でのっそり坐っている姿は滑稽で微笑ましい。時にはリボンなんぞ着けていると、これには思わず吹き出してしまう。私は大型犬が大好きだ。たれ目の顔が可愛いスイスの「セントバーナード」、しわくしゃの変な顔のスペイン産「スパニシュ・マスティブ」、純白の毛並に気品のある顔立ち、超大型犬の「グレート・ピレニーズ」、中国産のよだれたらしのボーとした「チャウ・チャウ」。大型犬はいずれもコセコセしない、悠々としたところが好きだ。今から二十年位、前までは、良く街中で見かけた彼等だが、昨今は滅多にお会いできない。これは日本の住宅事情もあり、広い庭も必要だし、食事の量も相当多いし、出すものもハンパじゃないらしい。散歩も二時間位必要で、男性でなければ無理、ともなればやはり女、子供に扱い易い、小型の玩具犬という事になるのだろう。

しかし、外国では大型犬はとても人気で、日本の柴犬も人気があるそうだ。あの小型犬と群れていたレトリバー君、最近見かけない、何となく気になっていたら、ママが忙しくなって、レトリバー君は知人に引き取られたと聞いて、今頃どうしているかなと、心が病んだ。今はもっぱらパソコンで、世界の大型犬を検索して楽しんでいる。

蒲公英句会・作品

門柱を　我が物顔の　百日紅　　相川
蛍狩り　一点強く　輝けり
こが句を　書いて風鈴　鳴らしけり　　柳生
疎開地に　来一升の　終戦日
通院の　街角に聴く　蝉の声　　岸野
終戦日　父は帰って　来なかった
今朝の秋　一筋の風　身にしみる　　佐藤
西瓜割る　山形産は　美味なりき
提灯で　足元照らし　盆送り　　山田
蜩や　一人で聴くのは　淋しかり
蟇（ひきがえる）飛び出す庭の　草を引く　　大野
朝顔に　来のとぎ汁　ほぎけり
三伏や　古き酒屋の　店じまい　　和田
道の辺の　カンナの一叢赤く萌ゆ
マサイ族　唱い踊るや　盆踊り　　吉富
蒼海に　沈みし御魂や　ちちろ鳴く
暑なずむ　空の彼方に　遠花火　　穂刈
合宿の　帰路に休みて　一夜酒
秋茄子の　旨み味わう　夕の膳　　松本
蜩の　鳴く故郷の　遠きかな
ガラス器に　見ず張り朝顔　浮かせけり　　平田
月見むと　空を仰げど　星も無く
蝉鳴くや　瀬戸の小島に　艦載機　　辛島
艦載機　夢に出て来ぬ　夜の秋
金柑の　花の一枝は　塀を超え　　比元
夏の空　高校球児に　気を貰い
友と居て　甲斐で求めし　桃冷やす　　河角
新涼や　極楽浄土の　中尊寺　　荘村
一人居や　風収まりて　蝉しぐれ